

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	武蔵大学
設置者名	学校法人根津育英会武蔵学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
経済学部	経済学科	夜・通信	32	-	-	32	13	
	経営学科	夜・通信			-	32	13	
	金融学科	夜・通信			-	32	13	
人文学部	英語英米文化学科	夜・通信	32	-	-	32	13	
	ヨーロッパ文化学科	夜・通信			-	32	13	
	日本・東アジア文化学科	夜・通信			-	32	13	
社会学部	社会学科	夜・通信	32	-	-	32	13	
	メディア社会学科	夜・通信			-	32	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページに一覧表を公開している。 https://www.musashi.ac.jp/visitor/syllabus.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	武蔵大学
設置者名	学校法人根津育英会武蔵学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.musashigakuen.jp/gakuen/soshiki/yakuin_hyougiin.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	2019. 4. 1 ～ 2022. 3. 31	産業界等での知識・ 経験・能力を活かし た学校法人運営へ の参画
非常勤	国立研究開発法人役員	2019. 6. 1 ～ 2022. 5. 31	産業界等での知識・ 経験・能力を活かし た学校法人運営へ の参画
(備考) 学外者である理事の総数は15名			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	武蔵大学
設置者名	学校法人根津育英会武蔵学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画(シラバス)は以下により作成し、公表している。</p> <p>【12月】授業担当者へ、各項目の記載内容についての説明が明確に記載されている「シラバス入稿ガイド」を送付し、作成を依頼。</p> <p>【1～3月】シラバス入稿後、点検者が記載内容点検マニュアルにより点検を行い、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項が正しく記載されているかを確認し、正しく記載されていない場合は授業担当者と連絡を取り、修正。</p> <p>【3月】複数回の点検作業により、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項が正しく記載されていることが確認された授業計画(シラバス)を公表。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>大学ホームページで、学内者のみでなく、広く一般に公表している。 https://www.musashi.ac.jp/visitor/syllabus.html</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 大学ホームページ・学内教務システムにより閲覧が可能な授業計画(シラバス)に記載された成績評価の方法・基準のとおり、各授業科目の学習成果の評価を行い、これに基づき、単位の授与又は履修の認定を行っている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学業成果を適切に評価する客観的な指標として GPA 制度を運用している。GPA の算出方法は以下の通りである。</p> <p>各授業科目の成績評価基準をポイント化し、それぞれの単位数を掛ける。これらを合計して履修登録単位数の総計で割り、単位当たりの平均を算出している。</p> <p>(GPA の算出式)</p> $(S \text{ の修得単位数} \times 4 + A \text{ の修得単位数} \times 3 + B \text{ の修得単位数} \times 2 + C \text{ の修得単位数} \times 1) \div (\text{総履修登録単位数})$	
客観的な指標の算出方法の公表方法	履修要項に記載し、大学ホームページで公表している。 https://www.musashi.ac.jp/annai/kyouiku_zyouhou/seiseki/gakubu_seisekihyouka.html
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>全学的な方針として、学園建学の三理想に基づき全学ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を策定している。加えて、各学部においては教育の基本目標の実現に向け、全学ディプロマ・ポリシーを踏まえ、各学部の教育研究内容に則った学部のディプロマ・ポリシーを策定している。</p> <p>ディプロマ・ポリシーに掲げた知識・技能・態度等を身につけられるよう1年次からのゼミ教育を中心にカリキュラム・ポリシーに沿って授業科目を開講している。最終的には、大学4年間の集大成である卒業論文・卒業制作、ゼミ論文にて評価を行い、学位を与えている。</p> <p>全学及び各学部のディプロマ・ポリシーは履修要項に記載するとともに、大学公式ホームページにも掲載している。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.musashi.ac.jp/annai/kyouiku_zyouhou/seiseki/diploma_policy.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	武蔵大学
設置者名	学校法人根津育英会武蔵学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.musashigakuen.jp/gakuen/zigyozaimu/keikaku_houkoku_yosan_kessan.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.musashigakuen.jp/gakuen/zigyozaimu/keikaku_houkoku_yosan_kessan.html
財産目録	https://www.musashigakuen.jp/gakuen/zigyozaimu/keikaku_houkoku_yosan_kessan.html
事業報告書	https://www.musashigakuen.jp/gakuen/zigyozaimu/keikaku_houkoku_yosan_kessan.html
監事による監査報告(書)	https://www.musashigakuen.jp/gakuen/zigyozaimu/keikaku_houkoku_yosan_kessan.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:学校法人根津育英会武蔵学園2020年度事業計画書 対象年度:2020年度)
公表方法: https://www.musashigakuen.jp/gakuen/zigyozaimu/keikaku_houkoku_yosan_kessan.html
中長期計画(名称:学校法人根津育英会武蔵学園第三次中期計画 対象年度:2016~2021)
公表方法: https://www.musashigakuen.jp/torikumi/keikaku.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.musashi.ac.jp/annai/kyouiku_zyouhou/hyouka.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.musashi.ac.jp/annai/kyouiku_zyouhou/hyouka.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 経済学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.musashi.ac.jp/annai/kyouiku_zyouhou/mokuteki.html) (概要) 経済学部は、大学の教育の基本目標に基づき、経済社会を対象とする理論と応用に関する知識を修得させ、主体的な思考力と適切な意志決定遂行能力を涵養することを教育研究上の目的とするとともに、あわせて現代の経済社会が直面する課題解決に際し、意欲的に取り組む力をもった有為な社会人育成を人材養成の目的とします。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.musashi.ac.jp/manabi/economics/policy.html#anchor0) (概要) 経済学部は、武蔵大学の教育の基本目標を実現するために、本学部が設定した履修すべき科目と卒業必要単位 124 単位を修得し、以下の知識・技能、態度等を身につけた学生に学士（経済）の学位を授与します。 1. 自然科学、人文科学、社会科学の広範な教養を身につけ、私たちの身の回りで起きる問題を総合的に把握できるとともに、経済学、経営学、そして金融学で学んだ知識や調査・分析手法を使って複雑化する社会問題を解決できる専門的な知識を修得していること 2. 多様な情報から問題の本質を捉えた上で、自ら課題を設定し、すでに身につけた知識、技能、経験を活かし、課題解決に必要な情報を調査収集し、それらを有機的に結びつける能力を有していること 3. グローバル化社会において、制度、文化、歴史の違いを超えて、社会現象を理解し、お互いの異質性や多様性を尊重した上で、オープンかつフェアな姿勢で協働できること 4. 必修外国語科目の習熟度が目標の水準に達していること。さらに留学制度を利用した学生や、パラレル・ディグリー・プログラム（PDP）を履修した学生は、高度な問題を外国語で議論できる能力を有していること 5. 総合科目や専門科目で学んだ知識や技能を使い、社会に貢献しようとし、自ら実践する意欲を強くもって行動できること
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.musashi.ac.jp/manabi/economics/policy.html#anchor02) (概要) 経済学部の教育課程は、学位授与方針に掲げる知識・技能、態度等を修得させるため、全学のカリキュラム・ポリシーに基づき総合科目、外国語科目、専門科目の 3 区分で編成されています。総合科目では幅広い教養を、外国語科目では自らの考えを外国語で表現するための運用能力を、専門科目では経済学、経営学、金融学の知識・技能を修得します。それとともに、4 年間全員が履修する少人数制のゼミナールによって、思考力・判断力・表現力と態度等の修得をより確かなものにしていきます。 これらを踏まえて、学科共通ポリシー及び各学科のカリキュラムに即したポリシーを定め、詳細を明示しています。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.musashi.ac.jp/manabi/economics/policy.html#anchor03)

<p>(概要)</p> <p>経済学部は、学園建学の三理想、全学の教育の基本目標ならびに全学の3ポリシーにもとづき、独自の教育上の目的や人材養成の目的を定めています。すなわち、自然科学、人文科学、社会科学の広範な教養を身につけ、専門的な知識を有機的に結びつける能力をもち、社会に貢献しようとする意欲を強くもって行動できる人物を育成することが人材養成の目的です。</p> <p>具体的な求める学生像として学部共通では、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学部全体および入学希望学科のアドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、そしてカリキュラム・ポリシーをよく理解し、本学部が設定した教育内容を学ぼうとする明確な意志をもっている人 2. わが国および世界の経済や金融、および企業等の経営に興味をもち、主体的に研究課題を見つけ出し、解決に必要な情報等を自ら調べ、調べたことを基に自ら考え抜き、他者と協力しながら、明確な結論を導くことができる人 3. 少人数制のゼミナールで、知識・技能、思考力・判断力、表現力、そして主体性を大学生活の中で身につけたい人 4. ロンドン大学とのパラレル・ディグリー・プログラム (PDP) の履修を希望する場合は、高度な問題を外国語で議論できる能力を身に付け、卒業後もそれを活かしたいと考えている人 <p>とし、さらに学科の特性に応じて強調したい点を学科ごとに定めています。</p> <p>その他、大学入学までに習得することが望ましい教科・科目、能力等について教科・科目ごとに求められる水準を明記している。加えて、入学者選抜方式ごとに受入方針を定め、評価方法や特に求めている人物像についても明記しています。</p>
--

<p>学部等名 人文学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.musashi.ac.jp/annai/kyouiku_zyouhou/mokuteki.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>人文学部は、大学の教育の基本目標に基づき、広く深い教養、言語能力及び国際感覚を培い、人文学の各分野における専門的知識と応用力を修得させることを教育研究上の目的とし、現代的な課題の解決に主体的に取り組む人物を育成することを人材養成の目的とします。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(https://www.musashi.ac.jp/manabi/humanities/policy.html#anchor01)</p>
<p>(概要)</p> <p>人文学部は、武蔵大学の教育の基本目標を実現するために、本学部が設定した履修すべき科目と卒業必要単位 124 単位を修得し、以下の知識・技能、態度等を身につけた学生に学士（人文学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い教養、グローバルな視野、人間尊重および他者との協調の精神を身につけていること 2. 外国語の実践的な運用能力を身につけていること 3. 言語・文学・歴史・民俗・思想・芸術・社会等の分野に関する専門的かつ横断的な知識を修得していること 4. 個人またはグループで主体的にテーマを選んで調べ、データの整理・分析・総合を行い、文章を論理的に構成し、現代的ツールを用いて能動的に表現し、自説の客観性を高めるために対話する力を身につけていること 5. 現代社会の特徴である多文化・多言語環境のなかで異文化間の理解・共感・連帯を求め、在学中に得た知識や技能をグローバルな枠組みで社会生活に応用しうる力を身につけていること
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p>

(公表方法: https://www.musashi.ac.jp/manabi/humanities/policy.html#anchor02)
(概要) 人文学部の教育課程は、学位授与方針に掲げる知識・技能、態度等を修得させるために全学のカリキュラム・ポリシーに基づき総合科目、外国語科目、専門科目の3区分で編成されています。総合科目では幅広い教養を、外国語科目では自らの考えを様々な言語で表現することができる外国語運用能力を、専門科目では、専門的な知識・技能、手法を修得するための「専攻科目」と所属の専門分野以外の知識・技能等を修得する「共通専門科目」を1年次から4年次まで体系的に配置し、ゼミナールによって問題解決力や思考力・判断力・表現力を修得します。 これらを踏まえて、学科共通ポリシー及び各学科のカリキュラムに即したポリシーを定め、詳細を明示しています。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: https://www.musashi.ac.jp/manabi/humanities/policy.html#anchor03)
(概要) 人文学部は、学園建学の三理想、全学の教育の基本目標ならびに全学の3ポリシーにもとづき、独自の教育研究上の目的や人材養成の目的を定めています。すなわち、広く深い教養、言語能力及び国際感覚を培い、人文学の各分野における専門的知識と応用力を修得させることが教育研究上の目的であり、現代的な課題の解決に主体的に取り組む人物を育成することが人材養成の目的です。そのうえで人文学部は、次のような入学者受け入れ方針を具体的に定めています。 具体的な求める学生像として学部共通では、 1. 高等学校等での学習に真剣に取り組み、基礎的な知識・技能、思考力、判断力、表現力を身につけ、主体性と協調性を備えていて、各学科のアドミッション・ポリシーをよく理解したうえで入学を強く希望する人 2. グローバル市民の自覚をもって自文化と異文化を深く理解する意欲のある人。特定の地域およびその地域の言語を集中的に学んで身につける一方、世界の諸地域の文化的多様性に目を向け、多言語・多文化学習を志す人 3. 主体的に研究課題を選び出し、自ら調べて考え抜き、他者と協力し、研究の分担を決めて自分の役割を果たす姿勢のある人。具体的には、少人数制のゼミナール、実習、卒業論文、卒業論文相当のプロジェクト授業に能動的に取り組み、単独で深く学ぶ姿勢、協調と協働の精神、そしてリーダーシップを総合的に身につけたい人 4. 対話や討論を行いながら研究を推進し、現地調査も積極的に行うなかで明確な結論を導き出し、それらを文書および口頭で、現代的なツールを用いて効果的に表現する力を身につけたい人 5. 学部共通のグローバル・スタディーズコース (GSC) 英語プログラムに関しては、英語で行われる専門講義やゼミナールに参加し、世界の諸地域の複雑な相互関係について広く学び、グローバルな規模で共有されている英語文学を読み、日本の古今の文化現象について調べ、英語で語る発信力を得たいと希望している人 6. 日本語教員プログラムについては、諸外国の人々に日本語を教えるなかで国際協力・国際親善の推進に寄与する意欲のある人 とし、さらに学科の特性に応じて強調したい点を学科ごとに定めています。 その他、大学入学までに習得することが望ましい教科・科目、能力等について教科・科目ごとに求められる水準を明記している。加えて、入学者選抜方式ごとに受入方針を定め、評価方法や特に求めている人物像についても明記しています。

学部等名 社会学部
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.musashi.ac.jp/annai/kyouiku_zyouhou/mokuteki.html)

<p>(概要)</p> <p>社会学部は、大学の教育の基本目標に基づき、多様な社会問題の発見と理論的及び経験的分析に基づいて、批判的精神と共感的対話力を涵養する教育研究を行い、望ましい社会のあり方を実現しうる総合的な構想力をもった有為な人材を養成することを目的とします。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.musashi.ac.jp/manabi/sociology/policy.html#anchor01)</p>
<p>(概要)</p> <p>社会学部は、武蔵大学の教育の基本目標を実現するとともに、複雑化、流動化する社会の変化の中で生じるさまざまな社会問題や課題への的確な対応が可能な人材の育成を学部教育の方針としています。これらを実現するため、本学部が設定した履修すべき科目と卒業必要単位 124 単位を修得し、以下のような知識・技能、態度等を身につけた学生に学士(社会学)の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学共通の総合科目を通じ、自然科学、人文科学、社会科学の広範な教養を身につけていること 2. 社会学、メディア学の専門的知識を修得し、理論的な思考力を身につけていること 3. 社会学部の学びの核となる社会調査・データ分析、解釈、制作及びそのリテラシーにかかわる専門的な方法論ならびに技能を身につけ、実習による経験を深めていること 4. 専門ゼミ、卒業論文・卒業制作を通じ、社会的意義のある研究テーマについて自ら調べ、事実に基づき批判的な分析を行うことができること 5. グローバル市民として文化の違いや国境を越えて他者を理解し、他者の文化を尊重するとともに、よりよい社会生活を実現するために、多様な価値観や意見を調整し、協働する姿勢を身につけていること 6. 多様な人々の中で、自らの考えを的確に表現・発信するスキルを修得していること 7. グローバル社会の中で有用な情報収集、その整理・検討等ができるように外国語運用能力を確かなものとしていること 8. 社会学の専門的知識と実践的スキルを活かし、社会や地域づくりに貢献する意欲をもち、主体的に行動できること
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.musashi.ac.jp/manabi/sociology/policy.html#anchor02)</p>
<p>(概要)</p> <p>社会学部の教育課程は、学位授与方針に掲げる知識・技能、態度等を修得させるために全学のカリキュラム・ポリシーに基づき総合科目、外国語科目、専門科目の3区分で編成されています。総合科目では幅広い教養を、外国語科目では自らの考えを英語や様々な言語で表現することができる外国語運用能力を、専門科目では「ゼミ科目」「方法科目」「理論科目」「展開科目」の4つの科目群に体系化し、1年次から4年次まで系統的知識や技能・手法を修得するとともに、課題解決力や思考力・判断力・表現力を修得します。</p> <p>これらを踏まえて、学科共通ポリシー及び各学科のカリキュラムに即したポリシーを定め、詳細を明示しています。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.musashi.ac.jp/manabi/sociology/policy.html#anchor03)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学の「学園建学の三理想」と「全学の教育の基本目標」、さらに、全学の3ポリシーを理解し、これを学ぼうとする明確な意志をもち、高等学校等までの真剣な学習の成果として、社会で起こっているさまざまな現象や事象、人間の行動や意識等に対して興味・関心をもち、社会学部で学ぶに十分な学力と学習態度・学習習慣を身につけていることを入学者受け入れの基本的な条件とします。</p> <p>具体的な求める学生像として学部共通では、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会のあり方や人間の行動等を学ぶ上で必要となる基礎学力を修得した人 2. 社会で起こっているさまざまな現象や事象に対して興味・関心をもち、主体的に行動することができる人。また、異なる価値観や文化、性別などに偏見をもたず、多様な人々と良

好きな関係を築き、協働することができる人

3. 社会で起こっているさまざまな現象や事象の中から課題を見出し、その原因や解決方法について、自ら情報を収集し、的確な対応、判断ができる人

4. 他者の考えや主張に耳を傾けるとともに、自分の意見を述べたり表現したりすることができる人

5. 学部共通のグローバル・データサイエンス（GDS）コースについては、国際化に対応するために英語に代表される語学力を修得するとともに、これからの社会で必要とされる社会調査の方法論や情報活用スキル、データサイエンスにも対応できる能力を修得し、グローバルな視点で国内外の社会的問題を科学的に分析しようという意欲をもち、その成果を日本語のみならず英語等の外国語で発信したいという希望をもつ人

とし、さらに学科の特性に応じて強調したい点を学科ごとに定めています。

その他、大学入学までに習得することが望ましい教科・科目、能力等について教科・科目ごとに求められる水準を明記している。加えて、入学者選抜方式ごとに受入方針を定め、評価方法や特に求めている人物像についても明記しています。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.musashi.ac.jp/annai/kyouiku_zyouhou/kihon_soshiki.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
人文学部	—	27人	9人	3人	1人	0人	40人
社会学部	—	19人	4人	0人	1人	0人	24人
経済学部	—	33人	5人	0人	1人	0人	39人
教養部（一般教養）	—	4人	2人	2人	0人	0人	8人
その他	—	3人	0人	1人	2人	0人	6人
合計	3人	86人	20人	6人	5人	0人	120人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		382人					382人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://up.musashi.ac.jp/pfm/japanese/index.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
FD委員会を設置し、授業評価アンケート、FD研修会、大学院懇談会、FDフォーラムを実施し、年度末に活動報告書を作成し、冊子を作成し教職員へ配布するとともにホームページに公開している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
経済学部	420人	412人	98.1%	1,680人	1,926人	114.6%	欠員の範囲	0人
人文学部	325人	287人	88.3%	1,300人	1,445人	111.2%	欠員の範囲	19人
社会学部	254人	249人	98.0%	1,016人	1,119人	110.1%	欠員の範囲	3人
合計	999人	948人	94.9%	3,996人	4,490人	112.4%	欠員の範囲	22人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
経済学部	517人 (100%)	3人 (0.6%)	483人 (93.4%)	31人 (6%)
人文学部	353人 (100%)	7人 (2%)	323人 (91.5%)	23人 (6.5%)
社会学部	261人 (100%)	1人 (0.4%)	247人 (94.6%)	13人 (5%)
合計	1131人 (100%)	11人 (1%)	1053人 (93.1%)	67人 (5.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 主な進学先：武蔵大学院。主な就職先：明治安田生命保険、りそな銀行、三井不動産リアルティ、練馬区役所 ほか				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
経済学部	569人 (100%)	477人 (83.8%)	56人 (9.8%)	22人 (3.9%)	14人 (2.5%)
人文学部	386人 (100%)	312人 (80.8%)	48人 (12.4%)	25人 (6.5%)	1人 (0.3%)
社会学部	272人 (100%)	239人 (87.9%)	21人 (7.7%)	11人 (1.8%)	1人 (0.4%)
合計	1,227人 (100%)	1028人 (83.8%)	125人 (10.2%)	58人 (4.7%)	16人 (1.3%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業計画（シラバス）は以下により作成し、公表している。</p> <p>【12月】授業担当者へ、各項目の記載内容についての説明が明確に記載されている「シラバス入稿ガイド」を送付し、作成を依頼。</p> <p>【1～3月】シラバス入稿後、点検者が記載内容点検マニュアルにより点検を行い、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項が正しく記載されているかを確認し、正しく記載されていない場合は授業担当者と連絡を取り、修正。</p> <p>【3月】複数回の点検作業により、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項が正しく記載されていることが確認された授業計画（シラバス）を公表</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
 大学ホームページ・学内教務システムにより閲覧が可能な授業計画（シラバス）に記載された成績評価の方法・基準のとおり、各授業科目の学習成果の評価を行い、これに基づき、単位の授与又は履修の認定を行っている。
 学修成果を適切に評価する客観的な指標として GPA 制度を運用している。GPA の算出方法は以下の通りである。

 各授業科目の成績評価基準をポイント化し、それぞれの単位数を掛ける。これらを合計して履修登録単位数の総計で割り、単位当たりの平均を算出している。

 (GPA の算出式)

$$\frac{(S \text{ の修得単位数} \times 4 + A \text{ の修得単位数} \times 3 + B \text{ の修得単位数} \times 2 + C \text{ の修得単位数} \times 1)}{\div (\text{総履修登録単位数})}$$

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
経済学部	経済学科	124 単位	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	48 単位
	経営学科	124 単位	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	48 単位
	金融学科	124 単位	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	48 単位
人文学部	英語英米文化学科	124 単位	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	48 単位
	ヨーロッパ文化学科	124 単位	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	48 単位
	日本・東アジア文化学科	124 単位	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	48 単位
社会学部	社会学科	124 単位	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	48 単位
	メディア社会学科	124 単位	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	48 単位

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.musashi.ac.jp/annai/kyouiku_zyouhou/shisetsu.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
経済	経済	770,000 円	240,000 円	300,000 円	
	経営	770,000 円	240,000 円	300,000 円	
	金融	770,000 円	240,000 円	300,000 円	
人文	英語英米文化	770,000 円	240,000 円	300,000 円	
	ヨーロッパ文化	770,000 円	240,000 円	300,000 円	
	日本・東アジア文化	770,000 円	240,000 円	300,000 円	
社会	社会	770,000 円	240,000 円	300,000 円	
	メディア社会	770,000 円	240,000 円	300,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 多様な学生の存在を尊重し、全ての学生が充実した学生生活を送れるよう、各部局等が連携し、支援体制や制度を整える。特に、障害のある学生については、「障害のある学生の修学支援に関する武蔵大学の指針」に基づいて支援する。また、全学年で指導教授制、オフィスアワー制度等を導入し、学生一人ひとりの主体的な学びを支援している。その他、成績や休学、留年等、学生の修学状況を把握し、学生がより良い選択が可能となるよう各部局等が連携して適切な対応をとれる体制を整えている。 その他、大学図書館、MCV (Musashi Communication Village)、ICT 設備等の拡充を通じて、学生の学修環境を整えている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリアカウンセラーの資格を持った職員が 10 名以上常駐し、いつでも気軽に相談できる環境で、卒業までに 90%以上の学生が個別相談を利用。また、年間 60 講座のべ 100 日間 150 回以上の支援プログラムを実施。卒業生が面接官役となって模擬面接を実施する「武蔵しごと塾」、活動を終えた 4 年生による個別相談会など開催している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生が心身ともに健康な学生生活を過ごせるよう学生支援センターに学生生活課、大学保健室及び学生相談室を置き、専門員 (カウンセラーや専門家等) を配置している。 その他、学生・教職員に対してハラスメント防止に向けた啓発活動を実施するとともに、相談体制を整えている。また、学生が安心して学生生活を継続できるよう奨学金制度も設けている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : https://www.musashi.ac.jp/annai/kyouiku_zyuhou/index.html
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。